

新型インフルエンザ  
パンデミック時の

# 社内マニュアルⅡ

## Survival manual

(改定2版 2008年10月改定)  
抜粋版



大幸薬品株式会社  
管理本部

## ご留意事項

1. このマニュアルは大幸薬品株式会社の社内マニュアルであり、当社以外での使用を目的としたものではありません。
2. 記載内容、感染対策の効果、安全性については、当社が保証するものではありません。
3. 記載内容に関する疑義について、当社はその責任を負いません。
4. このマニュアルを通じて入手したいかなるデータ、情報、文書、発言等も、著作権法で認められた私的利用の範囲を超える複製、販売、出版のための利用等はできません。

1. はじめに	…	5
2. 新型インフルエンザ3層防衛の考え方	…	6
3. 各フェーズと発生状況	…	8
4. 社員の行動指針		
(1) 社員や家族が罹患していない時の感染予防措置		
① 手洗い	…	9
② うがい	…	10
③ 歯磨き	…	10
④ 洗顔および洗髪	…	10
⑤ 公的な情報の収集	…	11
⑥ 社内情報の収集	…	11
社内情報の収集と連絡網リスト	…	13
⑦ ワクチン接種	…	15
⑧ 抗インフルエンザ薬の確保	…	15
⑨ かかりつけ医の登録	…	16
紹介状	…	17
⑩ 感染管理空間の形成	…	19
⑪ 外出時の注意	…	20
(2) 感染が疑わしい時		
① 想定される感染源	…	21
② セルフ判断チェックシートを使用した自己診断	…	22
(3) 社員本人が発症した時	…	23
(4) 家族が発症した時		
① 外部の要連絡先	…	24
② 家庭内で看護を行う際の注意	…	24
③ 症状と治療上の考え方	…	25
③-1 体温の管理	…	25
③-2 咳止め、去痰薬、のど飴等の使用	…	27
③-3 下痢止め薬の使用	…	27
参考資料 1 正露丸の主要薬効成分木クレオソートの腸管分泌抑制効果と腸管運動作用	…	28
③-4 水分の補給	…	29
④ 空気清浄機使用時の注意	…	29
⑤ 空調使用時の注意と換気	…	29
⑥ 空間二酸化塩素ガス濃度測定	…	30
⑦ 痰と症状の関係	…	30
⑧ 重症化しても入院、治療が受けられない場合	…	31
(5) 患者搬送		
① 病院や発熱センターへの搬送時	…	33
② 死亡時	…	33
③ 葬儀時	…	33

5. 生活環境の清掃、消毒	
(1) 通常の清掃	
① 洗浄・除菌	… 34
② 清掃者の服装	… 34
③ 各場所の清掃	
③-1 床	… 34
③-2 頻繁に触られる箇所	… 35
③-3 壁、天井	… 36
③-4 その他の物品	… 36
④ 雑巾・ふきんの洗浄	… 36
⑤ 清掃後	… 36
(2) ウイルスの除去法	
① 器材に対するウイルス除去	… 37
② 環境におけるウイルス除去	… 37
(3) 吐しゃ物や人由来の液体が存在している場合の清掃	
① 清掃者の服装	… 38
② 清掃手順	… 38
6. 物資の備蓄	
(1) 食料、日用品等	… 39
7. 企業における社員、家族の健康管理	
(1) 情報の収集	… 40
緊急用個人情報シート	… 42
8. 来訪者対応ー感染への警戒	
(1) 来訪者への対応フローチャート	… 44
面談ブース予約簿	… 46
来客記録簿	… 50
9. 企業ビル空調における感染管理方法	
(1) 低濃度二酸化塩素ガス発生ゲルによる感染管理方法	… 52
(2) 空調による感染管理方法の設定	… 53
参考文献	… 54
作成スタッフ	… 55

# 1. はじめに

## 新型インフルエンザの脅威とサバイバルの考え方

医学博士 柴田 高

人類は、紀元前2500年から4300年かけて1億人から10億人に地球人口を増加させました。しかしその数は、産業革命以降のわずか200年余りで67億人まで増加し、一日20万人の人口増加が起っています。そうした中、ひとたび強毒性で感染力の強い新型インフルエンザが発生すると、地球規模でのパンデミックが発生します。1918年に発生したH1N1新型インフルエンザは、スペイン風邪としてパンデミックを起こした後、現在も季節性のインフルエンザとして毎年約50万人の方が亡くなっています。しかし、H5N1という強毒性ウイルスが新型インフルエンザとして発生した場合、数年間のパンデミック後、通常のインフルエンザになるまでには、前述のスペイン風邪の死亡率2%とは比較にならないほどの甚大な健康被害が起こる可能性が想定されています。

当社では、新型インフルエンザ発生は社員およびその家族の生命にかかわる最大のリスク要因であり、また当社の事業継続と企業存続にかかわる最大の危機であると定義いたしました。さらに新型インフルエンザ対策の中では短期的なパンデミック対策にとどまらず、中長期的な対策が必要であると考えています。

新型インフルエンザ感染症の治療は、ウイルスの進入を阻止するワクチンや感染初期に体内での増殖を抑える抗インフルエンザ薬の投与がありますが、現在のところ、感染後には決定的な特效薬がないこと、重症化すれば十分な医療を受けることができないまま死亡する可能性があること、感染率、および、死亡率はいずれも若年者が高いことを前提に、家族を含めた40歳未満の方の感染もしくはその重症化を防ぐこと、そして職場内、家族内の二次感染を防止することを最優先にすることが最大の新型インフルエンザ対策となります。

第1段階は現在進行中のパンデミック時の対策で、社員やその家族の安全を確保するために、後述する物体防衛、空間防衛、体内防衛による感染対策を実施するとともに、企業活動が継続できる体制を維持するために、感染率および死亡率が高いと予想される40歳未満の社員をリストアップし、それぞれの年代別感染率を考慮し、それに合わせた入社基準を設けて事業継続計画の作成を行っています。第2段階はポストパンデミック対策となります。新型インフルエンザのパンデミックワクチン接種者と、すでに感染し回復した社員とそれ以外の社員をリストアップした入社基準を作成いたします。またそれ以外にも新たな問題に対し、タイムリーな行動計画やスムーズな対策実行が行えるように、既に作成されているフェーズ4B以降のパンデミック対策の継続と、状況に合わせたマニュアルの変更を行います。

今回改定した社内マニュアルは職場内、通勤途中、自宅および家庭内での新型インフルエンザ感染において「うつらない、うつさない」の行動教育、「今、何をしなければならないか。どれだけ理解と準備ができているのか」等の行動と評価のチェック、「フェーズごとのとるべき行動」のマニュアルを中心に産業医の立場から助言、指導して作成しております。

特にこのマニュアルでお願いしたいことは、小さな子供さんの命を最も大切にするにはどのような行動をしなければならないのか。自分自身の命と家族の命を守るためにはどのような行動をしなければならないのか。さらにヒトや会社のために働かなければならない立場の方が、どのような行動を行わなければならないのかを具体的に記載いたしました。新型インフルエンザは必ず近い将来やってくると専門家は口をそろえて訴えています。我々はがんや成人病にかからないため、毎年、健康診断や日々の食事に気をつけ、健康食品を摂ったりしています。新型インフルエンザによるパンデミックが発生すると、すべての人が数年で感染もしくは免疫を獲得するまで、がんや成人病とは比べ物にならないくらい、高い確率でわれわれの命を奪うことが示されています。将来の皆様とご家族の命を守るためにも必ずご理解とご準備をお願いいたします。

## 2. 新型インフルエンザ3層防衛の考え方

新型インフルエンザウイルスは、フェーズ3の段階ではウイルスそのものは存在しないため、過去発生した新型インフルエンザウイルスと、現時点で発生している鳥インフルエンザウイルスの感染様式から、対処法を導いてこななければなりません。主な感染経路は、接触感染と飛沫感染によるとされています。感染動物や感染した患者さんの咳や痰、くしゃみ、排泄物、体液、血液に含まれたウイルスが飛沫状に空間内を浮遊もしくは物体に付着し、そのウイルスを吸い込むか手や体に付着し、口腔粘膜、眼球結膜から体内へ侵入します。

これらのウイルスの体内侵入を防ぎ、少しでも侵入するウイルス量を減らし、感染の重症化や発症を抑えるためには、ひとり一人が行うべきこと、企業や集団が行なうべきこと、そして国や自治体、保健所が行い、我々がそれにに基づき行動すべきことがあります。

このマニュアルでは大幸薬品から各社員へ配布した、OTC医薬品や衛生対策キット、そして使用マニュアルを含めて、感染予防の考え方である3層防衛を解説いたします。

### 【3層防衛の実施】

#### 第1層 物体防衛

物体防衛はウイルスが体や物体に付着することを想定し、感染機会を低減するための出社制限や人との距離をとる「2mルール」の徹底、咳・くしゃみのエチケット、排泄物処理等「うつらない」「うつさない」行動の徹底とともに、感染源の物理的な遮断(マスクや防護衣によるウイルス進入経路の遮断)および、接触感染経路における物体除菌の徹底を図ります。

#### 第2層 空間防衛

空間防衛はウイルスが咳やくしゃみで空間中に浮遊すると想定し、呼吸することにより吸い込むウイルス量を減らす目的で、換気が十分できない居住空間や家庭内、通勤途中、職場内での空間除菌を行います。用途、場面に合わせた二酸化塩素ガス製品(注1)の空間除菌の方法とその準備、そして実施の徹底指導を行います。

(注1) *J Gen Viro* 89,60-67(2008): マウスインフルエンザAウイルスのエアロゾール感染実験で、人暴露労働安全基準の3分の1以下の二酸化塩素ガスによりマウスの感染死亡の阻止とヘマグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)活性の低下を確認。

#### 第3層 体内防衛

体内防衛は、体内へ侵入したインフルエンザウイルスの感染と増殖を抑えることを目的とします。プレパンデミックワクチンや、パンデミックワクチンはインフルエンザウイルスの表面タンパクであるヘマグルチニン(HA)活性を阻害することで細胞内感染を抑え、抗インフルエンザ薬であるタミフルやリレンザはウイルスのノイラミニダーゼ(NA)活性を阻害することでウイルスの体内でのばら撒きを抑え、体内増殖を阻止します。

プレパンデミックワクチンや、パンデミックワクチン接種と、早期対応戦略ガイドラインにおける抗インフルエンザ薬の予防投与は行政から指示を仰ぐこととなります。